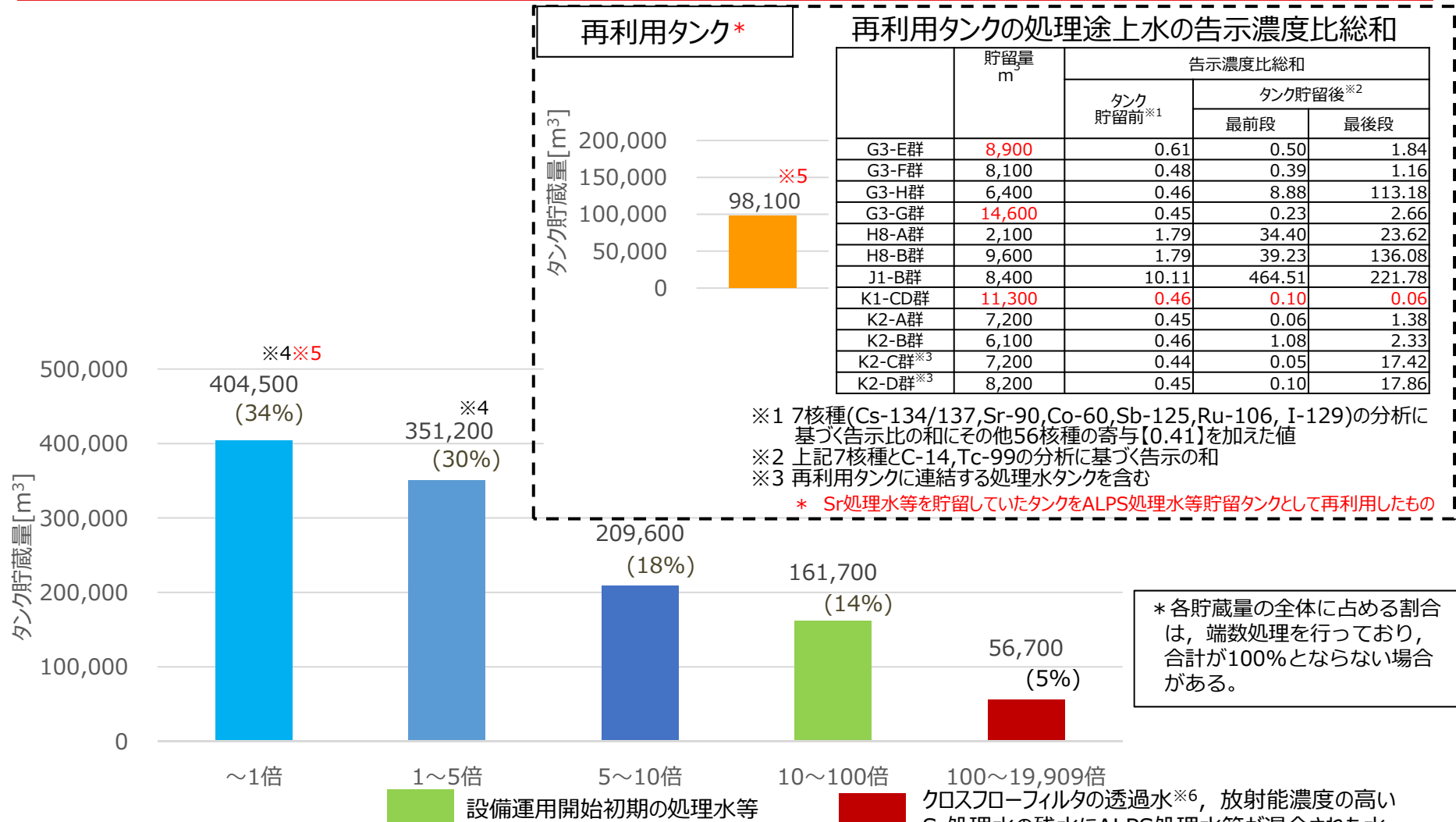


ALPS処理水等の告示濃度比(推定値)毎の貯蔵量 (2024年12月末時点) TEPCO



※1 7核種(Cs-134/137, Sr-90, Co-60, Sb-125, Ru-106, I-129)の分析に基づく告示比の和にその他56核種の寄与【0.41】を加えた値
 ※2 上記7核種とC-14, Tc-99の分析に基づく告示の和
 ※3 再利用タンクに連結する処理水タンクを含む
 * Sr処理水等を貯留していたタンクをALPS処理水等貯留タンクとして再利用したもの

* 各貯蔵量の全体に占める割合は、端数処理を行っており、合計が100%とならない場合がある。

※4 放射能濃度の実測完了後、追加で受入れた(2018年10月~)ALPS処理水等を含む。なお、受入れ量は少ないため当該タンク群における62核種の告示比総和(推定)は実測結果からの算出した値と同じとしている。
 ※5 ALPS処理水放出のため、~1倍: 9,800m³減少。ALPS処理水受入等のため、再利用: 3,300m³増加。
 ※6 2013年度に発生した既設ALPSのクロスフローフィルタの不具合により炭酸塩沈殿処理のスラリーが設備出口に透過した事象。